

Bonne Année !

国家間の紛争が早くおさまり、激甚震災を受けた能登地方の復興が進展して日常生活が1日でも早く戻る様願ひ、会員の皆様にはご多幸を祈って

一般社団法人福島日仏協会 理事長 太田英晴



吾妻小富士
福島市庭坂地区から眺める。右の山々は西吾妻連峰



47人が出席したクリスマス会



特別ゲストの大野均さん



挨拶する太田英晴理事長

福島日仏協会クリスマス会を開催しました

福島日仏協会(理事長太田英晴)は、12月4日に福島シャンソンの会(会長茂木甚吉)の協賛を得て、ウエディングエルティで参加者47名で開催しました。

太田英晴理事長の挨拶があり、元日本ラグビー代表大野均さん(郡山市出身)がフランス観光親善大使に任命された縁でサプライズで駆けつけて頂きました。選手時代のビデオ放映の後、今年のワールドカップ・フランス大会での日本代表の健闘ぶりを称えました。

渡邊博美副理事長の発声で乾杯した後、福島シャンソンの会4名が披露するミニコンサートは、ピアノ佐藤貴洋さん(東京芸大卒)の伴奏と音響がからみ合って出席者を魅了しました。中野祥子さん、野津寛子さん、茂木甚吉さん、神尾ミエさんが日頃鍛錬されている豊かな美声を次々と披露されました。音響装置にも事前に配慮され、馴染みの有るシャンソン披露でした。

コンサート終了後、お待ちかねの料理の時間になりましたが、今年は、クリスマスコース料理前菜として特注と言える「フランス産七面鳥の栗づめロースト」オードブルが紹介され、切り分け前に料理の説明があり提供されました。料理長の腕で「お米」の詰め込みと2種のソースのアクセントが絡みとても珍味で美味でした。デザート定番「ビッシュ・ド・ノエル(切り株状のケーキ)」もチョコレート仕様のクリームが塗られクリスマスムードが盛り

り上がりました。その他の料理も隠し味で増した旨さを味わう事ができ、参加者の皆さんの評判も上々でした。佐々木総料理長以下スタッフの皆さん、いろいろ工夫されましたね。料理の合間には会員さん久々の顔合わせの方々も伺われて再会を楽しまれており、また今回も菅野喜代治会員(料理教室講師)は初参加の同伴者を誘われ、各テーブルの参加者と親しく歓談されていました。サプライズゲスト大野均さんには、スマホ写メの希望者から次々と声がかかり記念撮影に気さくに応じられており、交流のチャンスが生まれました。宴もたけなわを迎えて、五阿弥宏安理事の「中締め」で印象に残るクリスマス会が終了しました。

大野均さんのゲスト参加は、五阿弥理事のお声がけで実現しました。ありがとうございました。



シャンソンのミニコンサート



フランス産七面鳥の栗づめロースト

私のフランス語日記 *Mon journal en français*

「mon quotidien」

C'est peut-être à cause de mon âge, mais j'oublie souvent des choses. Je commence à perdre la mémoire. Quand je rencontre un visage familier dans la rue, je le salue, mais je n'arrive pas à dire qui cest. Dans la conversation, j'utilise souvent des pronoms démonstratifs tels que ceci et cela. L'autre jour, alors que je sortais faire du shopping, je me suis rendu compte que j'avais oublié mon portefeuille en chemin. De plus, il semble que j'aie laissé la clé de la maison. Je ne la trouvais pas dans mes poches. Quand je me suis dépêché de retourner chez moi, j'ai constaté que la clé était toujours insérée dans le trou de la serrure de la porte d'entrée.

J'ai entendu dire que l'étude d'une langue étrangère activait l'esprit, donc j'apprends toujours le français, mais j'ai aussi commencé à apprendre l'espagnol il y a environ sept ans pour le rendre plus actif. Les deux sont la même langue européenne, il y a donc beaucoup de mots similaires. Bien qu'il soit facile de se souvenir des mots, c'est souvent confus et mélange pour moi. Dans un cours de français, quand je suis pressé, il m'arrive de dire « si » ou « gracias » en espagnol au lieu de « oui » ou « merci » en français (bien que l'inverse soit vrai dans un cours d'espagnol). En d'autres termes, dans l'apprentissage des deux langues je n'en suis encore qu'à mes balbutiements, mais je me dis que ça diot tout de même contribuer à l'activation de mon esprit d'une manière ou d'une autre.

Il y a eu un moment où je me suis apitoyé sur mon sort.

Il m'arrive d'acheter une boîte à lunch en rentrant de mon cours d'espagnol à Sendai. Le train est bondé le soir, alors je mets toujours mes bagages sur le porte-bagages. Ce jour-là, j'ai également mis le dipak et le gyutan bento sur l'étagère en filet. Et quand l'intérieur de la voiture était vide, j'ai posé mon dipak et j'ai sorti un livre de la poche. Il s'agissait d'une nouvelle d'Ango Sakaguchi intitulée « En pleine floraison de la forêt de cerisiers ». J'ai été fasciné par la lecture, et je l'ai terminée juste avant d'arriver à la centrale de Fukushima. Même après être descendu du train, je n'arrivais pas à m'enlever la dernière phrase de la tête. Le personnage principal, un bandit, délire sous des fleurs en pleine floraison et tue sa propre femme. Et dans la scène suivante, il tend la main vers le cadavre d'une femme.

…Il (le bandit) essayait de prendre les pétales sur le visage de la femme. Alors que sa main touchait le visage de la femme, quelque chose d'inhabituel semblait s'être produit. Puis, sous sa main, il n'y avait plus que des pétales qui étaient tombés, et la silhouette de la femme avait disparu en quelques pétales seulement. Au moment où il a tendu sa

「私の日常」

年のせいか、よくもの忘れします。そろそろ記憶もおぼつかなくなってきました。街で見知った顔に出会ったとき、挨拶は交わしますが、さて誰だったっけとなかなか名前が出てきません。会話をしながら、あれ、とか、これ、とか指示代名詞を使うことも多くなりました。

先日、買い物で外に出たときに、途中で財布を忘れたのに気がつきました。おまけに家の鍵も置いてきたようです。ポケットをあちこちさぐってもないからです。急いで家に戻ると、鍵が玄関扉の鍵穴に差し込んだままになっていました。

語学の勉強は頭を活性化させると聞いていたので、現在もフランス語を習っているのですが、もっと活性化させようと七年ほど前からスペイン語も習い始めました。どちらも同じヨーロッパ言語なので似た単語がたくさんあります。言葉を覚えやすい反面よくごっちゃになって頭がこんがらがります。フランス語の講座で、焦っているときなど、フランス語で oui とか merci というところをスペイン語の si とか gracias と口をついて出まったりします(スペイン語の講座のときはその逆になります)。つまりどちらの言語学習もまだ生かじりの域を出ないというわけですが、それでも頭の活性化には多少なりとも寄与しているはずだと自分に言い聞かせています。

もの忘れをして情けない思いをしたことが一度あります。仙台でのスペイン講座の帰りにときどき弁当を買ってきます。夕方の電車は混み合うので荷物はいつも網棚に上げておきます。その日もデイパックと牛タン弁当を網棚に上げました。そして車内が空いてきたところで、デイパックをおろして文庫本を取り出し読み始めたのです。坂口安吾の短編「桜の森の満開の下」でした。夢中になって読み進んでいき、福島駅到着ぎりぎりまで読み終わりました。電車を降りてからも、最後のくだりが頭から離れませんでした。主人公の山賊が満開の花の下で錯乱して自分の女を殺してしまいます。そして女の亡骸に手をさしのべる次の場面です。

……彼(山賊)は女の顔の上の花びらをとってやろうとしました。彼の手が女の顔にとどこうとした時に、何か変わったことが起きたように思われました。すると、彼の手の下には降りつもった花びらばかりで、女の姿は掻き消えてただ幾つかの花びらになっていました。そして、その花びらを掻き分けようとした彼の手も彼の身体も延ばした時にはもはや消えていました。あとに花びらと、冷たい虚空がはりつめているばかりでした。……

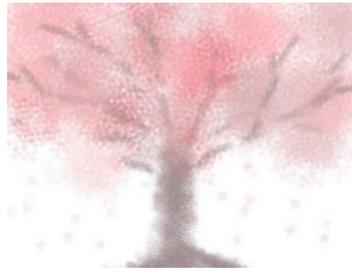
ひっそりと辺り一面に桜の花びらが舞い積もる光景が目に見え、その異様なあやしい光景に吸い寄せられ

main et a avancé son corps alors qu'il essayait de gratter à travers les pétales, ils avaient disparu. Des pétales de fleurs et un vide froid s'accrochaient au ciel.

La vue des pétales de fleurs de cerisier flottant partout tranquillement me vient à l'esprit. Il semblait que j'irai aspiré par la scène étrange et suspecte. Je me suis imprégné de la rémanence pendant un moment, mais j'ai rapidement été ramené à la réalité. Puis je me suis rendu compte que j'avais oublié mon gyutan bento sur l'étagère grillagée du train d'avant. Mais il était déjà tard et le train dans lequel j'avais été transféré glissait lentement hors du quai. Le gyutan bento coûtait plus de 1000 yens. C'était un gaspillage total d'argent.

Récemment, je me sens moins déprimé, peut-être parce que je me rapproche de l'illumination. Le jour viendra peut-être où je pourrai m'attendre à oublier des choses.

YUTAKA KAWAMURA



ていきそうです。しばらく余韻に浸っていましたが、まもなく現実に戻されました。そして牛タン弁当を先刻の電車の網棚に忘れてきたのに気がついたのです。

でも時すでに遅し、乗り継いだ電車はゆっくりとホームからすべり出していきました。牛タン弁当は千円以上しました。まったくとんだ無駄使いをしたものです。

最近は何も忘れしても、悟りの境地に近づいてきたのか、それほど落ち込まなくなりました。そのうちもの忘れをするのが楽しみだと言える日がやって来るかもしれません。

(フランス語会話教室受講生 川村 裕)

音楽堂のパイプオルガン

福島市が日本に誇れるものに音楽堂のパイプオルガンがあります。オルガニストとして活躍している知り合いが何人かいるのですが、彼らは口を揃えて「福島にある音楽堂のパイプオルガンの響きは素晴らしいよね。」と言ってきます。国内でもトップクラスの響きだそうです。



音楽堂のパイプオルガンはデンマークのマルクーセン&サンズ社製です。このオルガンの特徴は足鍵盤が奏でる低音が美しいことです。音色を決めるストップは42本。鍵盤は3段です。中には50センチほどの短いパイプから6mのパイプが3155本あり、甲高い音から太くて低い音まで奏でます。

オルガニストはストップの組み合わせで音色を決めていきます。どこにどのストップを使うかがオルガニストの腕の見せ所です。最近のCDには何のストップを使ったのかが書いてあるものもあります。

音楽堂はヨーロッパの大聖堂のような音を出すために壁には九谷焼のタイルが使われています。まるで石造りの聖堂で聞いているように音が降ってくるのが音楽堂の特徴だとオルガニストの佐々木しのぶ氏は言っています。日本では他にない音だそうです。

フランスのオルガン音楽の特徴を知り合いのオルガニストのフレデリック・リポー氏に聞いてみました。リポー氏は20世紀を代表するオルガニストのマリークレール・アランの最後の弟子です。

「フランスのバロック音楽のオルガン曲はミサの為に作られていました。その音楽はダンスや流行歌やグレゴリア聖歌などから作られた曲でした。クリスマスの装飾の



ように、クリスマスでの曲には装飾音が多用されています。オルガニストはチェンバロ奏者でもありました。18世紀の終わりになるとフランス革命の雰囲気醸し出したような曲が好まれました。そして19世紀になるとオーケストラのようなシンフォニックな曲が好まれるようになりました。セザール・フランクのオルガン曲などが代表です。」という返事をいただきました。

フランスの教会では日曜日の午後にはオルガンコンサートが開かれていることがあります。ドネーション形式で行われることが多いので、料金は気持ちで大丈夫。機会があったら行ってみてください。

以前行ったパリのコンサートでは、5ユーロから50ユーロを出す人まで様々でした。十字軍ゆかりのフィジャックという古い町に泊まった時は、幸運にもバッハの時代に作られたパイプオルガンでバッハのオルガン曲を聴くという幸運に出会えました。

3月26日(火)には私のNPOで白河市在住のオルガニスト竹佐古真希さんを迎えてパイプオルガンコンサートを開催します。この機会に福島市の誇るパイプオルガンの音を聴いてみてください。

佐藤 淳子 (会員)

フランス・リヨンの思い出

12年前、退職を機に6ヶ月間、フランス語研修のためフランス リヨンに滞在した。語学研修には苦勞したがスケッチを180枚抱えて帰国した。

・そもそもなぜフランス語？

40代の半ば、ヨーロッパ旅行でパリー日フリータイムがあった。早朝にモンマルトルのお店の前でスケッチをしていたら、お店の開店でシャッターが開いた。早々に退散しようとしたら何か言っている。その当時フランス語は全く分からない。どうやらそのまま描いていると言っているらしい。描き終わると中に招かれ絵を見せろと言う。褒めているらしい。

さすがが芸術の街だ。日本なら迷惑顔をされたろう。単純な僕はフランス語を話せるようになってまたパリに来るぞ！と決心をした。

ちょうどその頃、福島で日仏協会が設立され、フランス語教室の第1期生になった。

・何故リヨンだったのか？

アリアンスフランセーズの研修所があるところで、滞経費がパリより安かったからである。リヨンのことは全く知らなかった。美食の街、映画発祥の地など知ったのは生活してからである。

宿泊先は一般の民家で、アリアンスフランセーズ校から地下鉄で2駅、そこからバスで約15分、3階建てでリヨン大学などの学生を受け入れるための部屋が5室ある。どうやらここら一帯はそういう家が多い。6ヶ月、光熱費込みで35万円である。(安い?)

食事は、昼は外食、朝・夕は家で自炊(超簡易な)。土日は街に出てスケッチを続けた。

・リヨンの印象

街が美しい ヨーロッパの大きな都市は旧市街と新市街がある。リヨンも同様で旧市街の街並みは魅力的で絵描きは最高です。



フルヴィエールの丘から

二つの大きな丘フルヴィエールとクロワールスがあり、そこから街中を流れるソーヌとローヌの大河が見え絶景です。両方の丘にスケッチに通いましたが、クロワールスの方がスケッチポイントが圧倒的に多かった。

次にフランス第2の都市で、世界遺産の歴史的建造物、文化、賑わい、人種の多様さなど魅力に溢れる都市である。

僕がスケッチをしていて感じたことは、人が優しい。(パリの住民は観光客に冷たかった?僕の印象)

フルヴィエールの丘で早朝に寒くて震えながらスケッチをしていた。一人の男の人が買い物袋を提げて通り「寒そうだね。僕の家はそこだからコーヒーでも飲んで温まりな」と声をかけてくれた。ちょっと不安げについていくと、高級な住宅に美しい奥様と可愛いお嬢ちゃんが迎えてくれてびっくりした。僕が描いていた絵の中に奥様の車があったのだ。つたないフランス語で福島原発の状況などを説明した。「リヨンで何か困ったことがあればいつでも来てください」とまで言われた。



クロワールスの朝市

クロワールスの丘の朝市をスケッチしていた。子供二人が僕にまとわりついて離れない。一緒に遊んであげながら描いていた。朝市が終わる頃両親がきたら、家族で60キロ先から野菜を持ってこの市に来ているという。子供を見ていたお礼に野菜をたんまり頂いた。

それからリyonは気候がすごく良かった。6カ月間で傘を差した記憶と土日のスケッチをできなかった記憶がない。夏は気温が30度をあまり超えないし湿度が高くない。帰国の頃にはリyonが大好きな街になった。

元気なうちにまた訪れたいと願っている。

鈴木秀雄(会員)